

〈研究ノート〉

道内の獅子舞活動

— 富山県・香川県から伝承された獅子舞 —

浅見 吏郎

1. はじめに

札幌大学共同研究プロジェクト報告書(2008)で『札幌市及び札幌周辺の獅子舞』を記したが、その後も個人的な研究活動を行ってきた。北海道内の獅子舞は予想以上に数が多く、また演舞される時期が、神社の秋季例大祭などに限られており、演舞が行われる日程も重なっているため、前回のプロジェクト期間の2年間では幅広く調査ができなかったからである。今回はプロジェクトで調査したものを含め、現段階の状況をまとめることにする。

今回の分析は、実際に足を運んで動画や写真を撮影した28の獅子方のうち、富山県と香川県から伝わったものを対象とする(表1参照)。また、伝承元となった富山県の福光地区、利賀地区の舞も、一部ではあるが比較対象とする(表2)。富山県から伝承された獅子舞は、獅子の形や演目などによって大きく五つの型に分かれる。一人、または二人立ちの『下新川型』と『金蔵型』、百足獅子の形態を取る『砺波型』『水見型』『射水型』である^{*1}。道

(表1) 調査した獅子舞

市町村名	獅子舞名称	型
札幌市	丘珠獅子舞	砺波一般
	篠路烈々布獅子舞	砺波五箇山
千歳市	泉獅子舞	砺波一般
石狩市	望来獅子舞	砺波一般
岩見沢市	大願獅子舞	水見
芦別市	芦別獅子舞	砺波五箇山
赤平市	住吉獅子舞	水見
三笠市	幌内神社獅子神楽	その他
上砂川町	上砂川獅子神楽	金蔵
長沼町	長沼勇獅子舞	水見
栗山町	角田獅子舞	讃岐
	栗山親子獅子舞	砺波一般
新十津川町	新十津川町獅子神楽	砺波一般
秩父別町	ちくし神楽獅子舞	讃岐
雨竜町	雨竜町獅子神楽	下新川
沼田町	沼田越中獅子舞	砺波一般
旭川市	上川獅子舞	下新川
名寄市	風連獅子舞	砺波五箇山
愛別町	愛別岐阜獅子舞	その他
美瑛町	美瑛親子獅子舞	水見
南富良野町	幾寅獅子舞	砺波五箇山
利尻町	利尻麒麟獅子舞	その他
室蘭市	御供獅子舞	讃岐
登別市	幌別鉦山獅子舞	その他
洞爺湖町	香川獅子舞	讃岐
	月浦獅子舞	讃岐
	曙獅子舞	讃岐
浦幌町	浦幌開拓獅子舞	水見

(表2) 富山県の獅子舞

町村名	獅子舞名称	型
福光町	川原町の獅子舞	砺波加賀
	西町の獅子舞	砺波加賀
	西荒町の獅子舞	砺波加賀
	新町の獅子舞	砺波加賀
	天神町の獅子舞	砺波加賀
利賀村	北豆谷の獅子舞	金蔵
	坂上の獅子舞	砺波五箇山
	阿別当の獅子舞	砺波五箇山
	上島の獅子舞	砺波五箇山
	岩瀨の獅子舞	砺波五箇山
	利賀上村の獅子舞	砺波五箇山
	百瀬の獅子舞	金蔵
上百瀬の獅子舞	金蔵	

*1 詳しくは、『札幌市及び札幌周辺の獅子舞』「札幌大学共同プロジェクト報告書- 道都札幌市の現状とこれからの課題」(2008)に記してある。

内の獅子舞は数の上では『砺波型』と『氷見型』が多く、他は少数派である。したがって、富山県から伝承された獅子は、主に『砺波型』と『氷見型』について述べ、他は簡単に述べるだけに留める。

香川県から伝承されたものは、獅子の形や舞の形式などほぼ同一の形態、形式を持っているので、一つの『讃岐型』としてまとめる。今回のこの稿では富山県及び香川県から伝承されたものを対象とするため、三笠市幌内神社獅子神楽、愛別町愛別岐阜獅子舞、利尻町利尻麒麟獅子舞、登別市幌別鉦山獅子舞など2県以外から伝承された獅子舞は考察の対象から外すこととする。

2. 富山県からの伝承

2.1. 砺波型の獅子舞

道内で砺波型の獅子が舞われているのは22件である(表3)²。伝承元は砺波市、南砺市が主である。現南砺市は市町村合併により、東砺波郡の福野町、城端町、平村、上平村、利賀村、井波町、井口村、西砺波郡の福光町が合併して、2004年に誕生した市である³。

(表3) 砺波型獅子舞一覧

篠路烈々布獅子舞(石狩)	丘珠獅子舞(石狩)
泉郷獅子舞(石狩)	望来獅子舞(石狩)
砺波獅子舞(空知)	峰延獅子舞(空知)
芦別獅子舞(空知)	塊鉦黒獅子(空知)
多度志獅子舞(空知)	栗山親子獅子舞(空知)
新十津川町獅子神楽(空知)	滝上獅子舞(空知)
沼田越中獅子舞(空知)	本願寺越中獅子舞(空知)
風連獅子舞(上川)	富良野獅子舞(上川)
北野神社獅子舞(上川)	鷹栖町獅子舞(上川)
幾寅獅子舞(上川)	平越中獅子舞(留萌)
糠内獅子舞(十勝)	弟子屈町仁多獅子舞(釧路)

砺波型獅子舞は、氷見型や射水型と同様に百足獅子である。砺波型の特徴は、獅子の胴幕にある。胴幕には中に竹を通し、胴が大きく見えるようにしてある。氷見型や射水型は、胴幕を中の人で手で持ち上げているが、砺波型は竹を使用することで、獅子の胴体も動きもより大きくなる。その反面胴幕自体が重くなり、獅子が細かな動きをしたり走るといったことはなくなる。支えの竹を一人で両手に持つのが砺波一般型で、両端を一人ずつ二人で持つのが砺波五箇山型である(次頁写真1, 2)。

演目に使われる楽器は、笛と太鼓で、獅子方によっては鉦を使用するところがある。獅子取りの頭に「シャグマ」を付ける所もあるが、シャグマの代わりに鉢巻きを巻いているところもある⁴。

² 型の分類が不明のものがまだ存在するが、確実に砺波型と言える団体を計上した。

³ 平村、上平村、利賀村の3村が五箇山地区と呼ばれる。

⁴ シャグマを付けていたのは、丘珠、泉郷、南富良野、風連であった。



(写真1) 砺波一般型獅子舞
【新十津川町獅子神楽】



(写真2) 砺波五箇山型獅子舞
【篠路烈々布獅子舞】

今回考察をする獅子で砺波一般型の獅子方は、丘珠、泉郷、望来、栗山、新十津川、沼田の6箇所である。伝承元は、丘珠が福野町、泉郷が富山市水橋、望来が利賀村下原、栗山が福光町、新十津川が利賀村栃原、そして沼田が庄川となっている^{*5}。泉郷を除き、他は砺波平野以南から伝承している点で共通している^{*6}。また、泉郷を除き、演目の中に「鎌」や「刀」など戦いの舞が見られるのも特徴である。

五箇山型の獅子方は、篠路、芦別、風連、幾寅の4箇所である。伝承元は、篠路が福光町（神成）、芦別が城端町、風連が五箇山上平地区である。幾寅は伝承元が明確ではないが、幾寅地区への入植者（＝越中団体）の出身地は東砺波郡高木村、上野村、西福光村と記されているので、砺波平野南部の舞が伝わっているものと考えられる^{*7}。4団体で共通する舞は「京振り」で、篠路以外の3箇所では「七五三」が共通である。

砺波型の演舞構成は、大きく2種類に分けることができる。

(1) 砺波型演舞の分類

- ・砺波型Ⅰ＝刀、鎌、棒、長刀（薙刀）などの武器を使用し、獅子と戦う舞。
- ・砺波型Ⅱ＝祇園囃子、七五三、京振りなど、獅子取り棒を用いる舞。

砺波型Ⅰは、加賀獅子の流れを汲む純粋な砺波型の舞である。この舞が見られるのは、丘珠、望来、栗山親子、新十津川、沼田、幾寅の各獅子方である。また、富山県では福光

*5 伝承元は、この稿では旧町村名で記す。

*6 泉郷の伝承元である水橋周辺は、滑川の獅子舞のように氷見型の舞がある。

*7 『南富良野町史』より。

町の全獅子方、利賀村の坂上、阿別当、上畠、利賀上村で舞われている。砺波一般型の獅子で舞われている演舞の核となるものと言ってよい。それぞれ獅子取りは単独で舞うが、演目によっては二人若しくは数人で組み、舞う獅子方もある。複数で舞うときの演目名も「二人舞」などとされ、刀と棒、薙刀と刀などを組み合わせて舞われる。旋律や拍子はややゆったりとしているが、演目や各獅子方毎で奏で方が異なるため共通性はあまり見られない^{*8}。しかし、新十津川と望来に関しては、伝承元が同じ利賀村ということもあり、拍子の取り方は異なるが旋律がほぼ似通っている点が見られる。実際に利賀村坂上の獅子舞では、「鎌」や「薙刀」で二つの獅子方と非常によく似た演目が見られた。

砺波型Ⅱは、氷見型の流れを汲む舞である。したがって、氷見型の演目と共通する部分も見られる。主に砺波五箇山型の獅子で舞われているが、砺波Ⅰ型と併せて演舞する獅子方もある。この舞が見られるのは、篠路、泉郷、芦別、栗山親子、新十津川、風連、幾寅の各団体である。特に風連と幾寅では共通な点が数多く見られた。また、富山県利賀村の坂上、阿別当、岩渕の各獅子とも共通する部分がある。五箇山の獅子は、氷見地方へ出向いて舞を習ったという歴史があるため、同じ様な舞いの形態が伝わっているものと考えられる。栗山親子と新十津川では、砺波Ⅰ型と共に舞われている^{*9}。

この砺波Ⅱ型の各演目に使用される曲は、旋律や拍子にある程度の共通な箇所が見られる。特に「祇園囃子」「七五三」「京振り」「吉崎」の四つの演目は風連と幾寅にも演目が存在する^{*10}。また、利賀村の坂上、阿別当、岩渕にも共通の演目と舞が存在する。以上の四つの演目を、参考資料として楽譜に表し掲載する(楽譜1～4)^{*11}。獅子方毎に若干装飾音などに違いがあるが、最低限の旋律と拍子の特徴を表した。

楽譜1の「祇園囃子」は、獅子取りが両端に房の付いた1m程の棒(獅子取り棒)を持ち、獅子をあやす舞である。祇園囃子が舞われている獅子方は、栗山親子、新十津川、風連、幾寅であった。富山県の利賀村では、坂上、阿別当、上畠、岩渕でも舞われている。舞の特徴は、獅子取りが獅子取り棒を両手で体に引き寄せる所作と、同じく獅子取り棒を片手で持ち、地面と平行にして後ろへ引きつける所作が見られるところにある。曲も華やかな

*8 福光町の各獅子舞に関してのみ、全てでほぼ同じ様な音階、拍子で舞われていた。

*9 新十津川では、砺波Ⅰ型を『純粹』、Ⅱ型を『新派』として表している。また、栗山親子では、Ⅰ型の方を『加賀獅子』と表している。

*10 演目の名称については、獅子方によって故障が若干異なる。「京振り」は「狂振り」と表現するところもあり、「吉崎」は「ヨッサク」「ヨシザキ」「ヨッサキ」など呼ばれるところもある。ここでは統一して、「京振り」「吉崎」と表記する。

*11 西洋音階で表すと、笛の音階は厳密には二長調となるが、#Fと#Cは使用しないため、便宜上調号記号(#)はここでは記さない。

道内の獅子舞活動

(楽譜1) 『祇園囃子』

旋律で、区切れもやや長めになっている。栗山親子で使用されている旋律は、やや変則的なものではあるが、楽譜1 に準じていると言ってよいであろう。砺波Ⅱ型の中では、舞や旋律にそれ程大きな違いが見られない演目である。いわゆる「舞い獅子」といわれる中でも幅広く舞われている。

楽譜2の「七五三」も、同じく獅子取り棒を用いる。七五三が舞われている獅子方は、泉郷、芦別、新十津川、風連であった^{*12}。富山県の利賀村では、坂上、阿別当、上畠、岩渕で見られた^{*13}。軽快な拍子に乗り、獅子取りが細かな動きと大きな動きを混ぜて舞う演目である。本来、七五三は獅子の足運びを表した演目と言われている。前に七歩進み、斜め後ろに五歩下がり、三步で元の位置に戻るといふ足運びであるらしい。しかし、道内の獅子方では、七五三で使用されている曲に合わせて舞っているようである。

(楽譜2) 『七五三』

*12 水見型ではあるが、浦幌開拓獅子舞でも七五三が舞われている。

*13 利賀村の獅子方と風連では、楽譜2を数回繰り返した後、祇園囃子の曲を使った舞が見られた。

楽譜3の「京振り」では、やや長めの獅子取り棒を使用するところも見られる。獅子取りの動きは大きく、素早く獅子取り棒を左右に振り回す所作が見られる。特に、獅子取り棒の片方を両手で持ち、左右に大きく振り回すのが、京振りの特徴とも言える^{*14}。また、演目の初めに、獅子に対して背を向けて構えるのも特徴である。篠路、芦別、風連、幾寅にこの演目がある。ただし、篠路は楽譜3の旋律を使っておらず、演目の時間も少し長めである。また、獅子取り棒も長いものを使用している。篠路獅子舞の伝承元については、さらに詳しく調べる必要を感じた^{*15}。富山県の利賀村では、坂上、阿別当、上畠、岩淵で舞われている。旋律と拍子の特徴は、太鼓が細かく刻む拍子にあり、重厚な感じがある。獅子方によっては、少し早めに演奏するところと、若干遅めに演奏するところがあった。上畠では長い獅子取り棒を使用し、坂上、阿別当、岩淵では祇園囃子と同じ長さの獅子取り棒を使用していた。

(楽譜3)「京振り」

The musical score is presented in two systems. Each system contains three staves: the top staff for the flute (Fue), the middle staff for the drum (Taiko), and the bottom staff for the gong (Shimekazari). The time signature is 4/4. The flute part consists of a series of eighth and quarter notes. The drum and gong parts are highly rhythmic, with the drum playing a pattern of eighth notes and the gong playing a pattern of eighth notes with 'x' marks indicating specific strikes.

楽譜4の「吉崎」は、ヨツサク、ヨツサキと呼ぶところもある。現在調査した獅子方では、風連と幾寅の2箇所を確認をただけである。富山県の利賀村では、坂上、阿別当、岩淵の3箇所舞われていた。舞の特徴は、獅子取りが獅子に対して体を真横に向けて獅子取り棒を振る所作が見られる。また、獅子を背にして前に進む所作もする。演目の由来は、加賀の吉崎御坊から蓮如上人がお越しになる際に村人が歓迎の意味で舞ったという説があるらしい。

*14 「強振り」と表現するところもある。

*15 篠路の伝承元は、福光町というところまでは判明しているらしいが、福光町のどの獅子舞であるかはまだ不明である。

(楽譜4) 『吉崎』

砺波型の舞は、力強くゆったりとした形が特徴である。隣の石川県から伝わった加賀獅子の影響があるため、武器を用いて獅子と戦うことが基本となっている。また、五箇山地方の獅子舞は、氷見地方へ獅子を習いに行った影響で舞獅子も取り入れている。獅子自体も胴幕の中に竹を入れ、さらに大きく揺らすため豪快な印象を与える。

2.2. 氷見型の獅子舞

砺波型に次いで多いのが氷見型の獅子舞で、道内には11件ある(表4)。伝承元は、富山県西部の氷見市を中心とした一帯からである。氷見型の特徴は、砺波型と違

い胴幕には竹の支えを入れずに、中に入る人が直接手で胴幕を持ち上げていることである。また、獅子取りではなく天狗が先導する点も異なる。天狗役は天狗面と烏帽子を被り、手には槍や太刀、幣などを持つ(写真3)。囃子手は笛と太鼓を用いるところは同じであるが、鉦が必ず加わる。鐘を激しく鳴らすことによって、重厚な砺波型とは対照的に動きが激しく荒々しい感じがする。

砺波は笛と太鼓が囃子の中心であるが、氷見型では鉦が囃子の中心であるかのように感じる。太鼓は棒を担いで運ぶ砺波型に対して、氷見型では台車を使うことが多い^{*16}。砺波型では、獅子と戦う演目が存在するが、氷見では単に戦うというのではなく、終いには

(表4) 氷見型獅子舞一覧

大願獅子舞(空知)	金子獅子舞(空知)
元町子供獅子舞(空知)	北元町青年会獅子舞(空知)
新生元町子ども獅子舞(空知)	住吉獅子舞(空知)
長沼勇獅子舞(空知)	美瑛親子獅子舞(上川)
南浜獅子神楽(宗谷)	東土狩獅子舞(十勝)
浦幌開拓獅子舞(十勝)	



(写真3) 氷見型獅子舞
【岩見沢市大願獅子舞】

*16 ただし、調査を行った道内の獅子方では、太鼓の台車は見られなかった。

獅子を殺すところまで演じられる。

今回考察をする獅子方は、岩見沢市大願獅子舞、赤平市住吉獅子舞、長沼町勇獅子舞、美瑛町親子獅子舞、浦幌町開拓獅子舞である。ただし岩見沢市大願獅子舞は、演目名に関しては不明な点があるので参考程度にする¹⁷。氷見型獅子舞の演目は、主に以下のもので構成される。

(2) 氷見型演舞の分類

- ・氷見砺波共通型 = ヒトアシ、フタアシ、祇園囃子など獅子をあやす舞。
- ・氷見独自型 = ヤツブシ、獅子殺しなど獅子を射止める舞。

氷見型独自型では、獅子殺しという演目名の通り、最後に獅子を射止める演目があることが大きな特徴と言える。砺波型では、武器を持って戦う所作はするものの、射止めるまでには至らない¹⁸。また、富山県氷見市内の獅子舞では、獅子殺しの舞を数分から数十分、延々と舞うところもあるという。道内の獅子方では、住吉と長沼勇に演目が存在する。住吉の獅子殺しは、あまり激しい舞とは言えないが、舞の最後では天狗が獅子を槍で刺す所作がある。対して、長沼勇は住吉よりも激しい舞である。長沼勇は、雄獅子と雌獅子の二頭舞であるが、獅子殺しの演目では先に雄獅子が天狗に射止められ、それを見た雌獅子が雄獅子に駆け寄ってくるという、生々しい所作が見られる。その雌獅子も、最後には天狗に射止められる¹⁹。ヤツブシは、住吉、長沼勇で舞われているが、砺波型の幾寅にも演目がある。ヤツブシとは、笛の音階を八つ使うことから名づけられたと言われており、笛の音に合わせて軽快な舞が見られる。

氷見砺波共通型では、ヒトアシ、もしくはフタアシを舞う獅子方が多い。住吉、美瑛親子、浦幌開拓に演目がある。また、大願にも伝わっているらしい²⁰。砺波型の新十津川でも、フタアシが舞われている。

氷見型の舞は、天狗が大きく左右に動いて槍や太刀などを振り回し、最後には獅子を射止めるのが大きな特徴である。また、激しく鉦を鳴らすことで軽快さと共に荒々しさも感じた。一つの演目も、砺波型では1分前後のものが多いのに対し、氷見では3分前後とやや長く、獅子殺しは特に長めに演ずるところが特徴である。

*17 大願の演目名は、「祇園振り」「太刀振り」「ヨソブリ」であると、サイトへの書き込みがあった（情報提供者は富山県在住）。

*18 風連には「獅子殺し」の演目がみられた。

*19 天狗が刀を持ち、獅子の頭を真っ二つに割るという所作が見られる。

*20 『空知の郷土芸能』空知文化財シリーズ第9集、空知地方史研究協議会（1980）による。

2.3. その他

砺波型、氷見型以外では、雨竜獅子神楽と旭川市上川獅子舞の下新川型、上砂川獅子神楽の金蔵型がある。下新川型、金蔵型ともに百足獅子ではなく、下新川型は一人立ち、金蔵型は二人立ちの獅子である(写真4,5)。いずれも道内では数少ない獅子舞である(表5)。



(写真4) 下新川型獅子舞
【旭川市上川獅子舞】



(写真5) 金蔵型獅子舞
【上砂川町獅子神楽】

下新川型は、一人立ちの獅子に対して天狗が対峙する形式を取る。しかし、氷見型のような烏帽子は付けていない。手にするのは竹の棒や刀、傘などで、獅子と戦う形式を取る。囃子は笛と太鼓を使い、軽やかな拍子に合わせて天狗と獅子が舞う。雨竜では拍子木も使われていた。獅子を被っているのは一人であるため、獅子自体も軽い動きをする。特に上川では天狗だけではなく獅子も前転をする動きが見られた。また、雨竜では天狗の他に猩々も現れる舞がある。天狗が酒を飲んでいるところへ猩々が現れ、二人で酒を酌み交わす。そこへ獅子が現れると、今度は獅子に酒を飲ませ、天狗と猩々が獅子を退治するという展開をする舞があった^{*21}。伝承元は、上川が黒部市釈迦堂、雨竜が下新川郡小摺戸町と、非常に近い地域であるにもかかわらず、舞の形態が異なっていた^{*22}。

(表5) 下新川型・金蔵型獅子舞一覧

【下新川型】

妹背牛町獅子舞(空知)	雨竜町獅子舞(空知)
旭川上川獅子舞(上川)	豊田獅子舞(上川)
山部越中獅子舞(上川)	有明獅子舞(留萌)
瑠瑠瑠獅子神楽(根室)	

【金蔵型】

上砂川獅子神楽(空知)	瑞穂獅子舞(上川)
-------------	-----------

金蔵型の上砂川は、二人立ち二頭立ての獅子に獅子取りが数人付く形態を取る。初めに法螺貝の合図で獅子を起こすところから演目が始まる。獅子の動きは大きく、同じ金蔵型

*21 香川県から伝わった「角田獅子舞」(後述)にも、同様な舞がある。

*22 現在は、釈迦堂も小摺戸も同じ黒部市である。

である利賀村の北豆谷、百瀬、上百瀬と同様に、獅子の頭と胴を高く持ち上げる所作が見られた。演目によって、獅子取りが二人、または数人付く。しかし、いわゆる「金蔵」の舞は見られなかった^{*23}。むしろ、伝承元が富山県南部であるためか、五箇山型と同様に氷見型の影響を受けているように感じた。

下新川型と金蔵型は、道内で舞われているところが少ないので、機会があれば改めて調査を試みたい。また、富山県の下新川地方へも足を運ぶことが出来ればと思っている。

ここでは取り上げないが、射水型の獅子舞も道内1箇所伝承されている。釧路地方の弟子屈鑑別獅子舞である。刀を使った舞やノリタカなど、砺波型や氷見型の影響もあるように思える。機会があれば調査をする予定である。

3. 香川県からの伝承

香川県から伝承された獅子舞は、13箇所である(表6)。これらをまとめて讃岐型とする。讃岐型の特徴は、二人立ちの獅子で、一頭立てもしくは二頭立てで舞われることである(写真6)。今回の調査対象は、栗山角田獅子舞、秩父別ちくし神楽獅子舞、

(表6) 讃岐型獅子舞一覧

讃岐瑞穂神楽(後志)	蘭越獅子神楽(後志)
納内町猩々獅子舞(空知)	猩々獅子舞五段くずし舞(空知)
栗山角田獅子舞(空知)	大鳳獅子舞(空知)
ちくし神楽獅子舞(空知)	室蘭御供獅子舞(胆振)
札内神楽獅子舞(胆振)	香川獅子舞(胆振)
月浦獅子舞(胆振)	曙獅子舞(胆振)
仲洞爺獅子舞(胆振)	

室蘭御供獅子舞、洞爺湖香川獅子舞、洞爺湖月浦獅子舞、洞爺湖曙獅子舞である。これらの獅子方の内、獅子取りとして栗山角田獅子舞では猩々が付くが、それ以外の獅子方には付かない。代わりに、太鼓を打つ者が獅子の周りを回ったり、獅子をあやす所作をする。御供、香川、月浦、曙では、太鼓を打つ者が花笠を被り、獅子取りと似た様な所作をする場面が見られる。太鼓を打つ者が離れている間は、「裏打ち」と呼ばれる者が太鼓の反対の面を叩き、拍子をつなぐ。太鼓と共に鉦を使用するが、御供、香川、月浦、



(写真6) 讃岐型獅子舞
【室蘭御供獅子舞】

*23 獅子取りが、獅子の後ろの肩に立ち上がるという、アクロバティックな舞である。百瀬、上百瀬では舞われている。

曙では富山県型の獅子舞と異なるやや大きめの鉦を使う。拍子の取り方も強弱を明確に付け、太鼓よりも目立つ叩き方をする。笛が使われていたのは、栗山角田、ちくし、御供、香川、月浦であった。月浦は太鼓と鉦のみ使用していた。

舞われる演目の形態に関しては、富山から伝わった舞と大きく異なる。富山型では数分の演目が数種類舞われ、それぞれに演目名がついているが、讃岐型は15分程度の舞が一つだけ舞われる。その連続した一つの流れの中で、笛の旋律や太鼓の拍子を変え、演目名を付けている。栗山角田では「宮参り」「口上」「本曲一」「本曲二」「狸々の舞」「浮かれ獅子」、ちくしでは「一番」「二番」「夫婦獅子」の順番で舞われる^{*24}。御供では、「太鼓」「変目」「獅子舞」「変目」という順に舞われるということである^{*25}。香川と月浦では、獅子が舞う前に、男性が一人薙刀を持ち、場を浄める所作が見られた。

拍の取り方に関して、御供、香川、月浦、ちくしの獅子方については、若干の装飾はあるものの、ほぼ共通なものが見られた。笛を除いたものを楽譜に表す（楽譜5～8）。ここで表す拍は、演目全体の中でも最も頻繁に打たれている箇所を示している。これらの拍に次いで、打ち方に変化を加えた演目が続く。

(楽譜5) 『室蘭御供獅子舞』

(楽譜6) 『曙獅子舞』

(楽譜7) 『月浦獅子舞』

*24 栗山角田は「栗山角田獅子舞」のサイトより、ちくしは秩父別町総合文化祭のアナウンスより演目名を知ることが出来た。

*25 御供の演目名については、室蘭市立喜門岱小学校のサイトに名称が書かれていた。

(楽譜8) 『香川獅子舞』

(楽譜9) 『秩父別ちくし獅子舞』

拍の早さは獅子方によって若干の違いがある。御供は」=145 程度、曙は」=120 程度、月浦は」=110 程度、香川は」=120 程度、そしてちくしは」=115 程度である。ちくしは「讃岐の暴れ獅子」と呼ばれるだけあり、軽快な早さで打たれている。また、地域が隣り合っている曙と月浦は、曙が雄獅子、月浦が雌獅子と言われており、舞の形は似ているが月浦の方がゆったりと低く舞っている。

富山型の獅子と比べ、讃岐型は一つの演目を一連のストーリーで表現している。そのストーリーの中で、拍子を変えて場面を表すのが特徴となっている。また、獅子取りはつかないが、太鼓を叩く者が着飾ったり、獅子をあやしたりする動作をするところが大きな違いと言える。

4. おわりに

道内に伝わる獅子舞の多くが、明治40年代に伝承された。新天地を求め故郷を去り、北海道へ入植した人たちが、郷里を懐かしみながら伝統芸能を広めたことであろう。獅子舞を舞うことで故郷を振り返り、また仲間の連帯感も強くなったことは想像ができる。

富山県から伝わった獅子舞は砺波型が多い。ほとんどが空知を中心とした地域に広がっている。米所である富山県の砺波地区から北海道へ移住した人々は、石狩川流域地帯に入植し、米作を営んでいる。砺波近隣の氷見地区からの移住者も同様であると思われる。道内には射水型の獅子舞が少ないが、機会を見つけ、是非調査をしてみたい。

讃岐型は胆振地方を中心として伝わっている。洞爺湖周辺の曙、月浦、香川の各獅子方

は、現在でも互いに交流をしているとの話しを伺った。壮瞥町や深川市にも伝承されているので、次回はそちらの方へも足を運んでみたい。

近年の少子化、娯楽の多様化によって、伝統芸能の後継者不足が目につくようになった。道内に限らず、本場富山県においてもその傾向は窺える。調査に回った利賀村や福光町でさえ、隣町から獅子取りを借りてくるという。利賀村大豆谷でも、2007年には活動をしてきたが、2年後訪れた時には、後継者不足のために活動を休止していた。道内でも後継者不足で、残念ながら活動を休止している所も多々ある。特に地方の農村部では、若手の後継者がおらず、保存会の年齢構成も高くなっている所が目立つ。近年では、赤平市の住吉獅子舞が活動の休止に追い込まれたようである。地域興しの一つとして、町の祭りや文化祭などで活動を広め、後継者を育ててもらいたいと考える。また、母村訪問などで、伝承元の地区と交流を深めるのも良いであろう。

最後に、調査でお世話になった獅子方保存会各位、関係教育委員会ならびに関係役場各位にお礼申し上げます。私設のサイトでも、富山県や香川県の方々、各獅子舞保存会の方々から多くの情報をいただきました。特に、風連獅子舞保存会会員で本学のOBでもある石谷邦明様からは、数多くの情報をいただきました。また、NHK 滝川報道室の越後弘様からは、数々の貴重な映像資料を提供していただきました。ここに感謝の意を表します。

※ 本稿に登場する獅子舞の動画は、筆者の運営する私設サイト『北海道の獅子舞』
(<http://44mai.iza-yoi.net>) に掲載してある。

参考図書

- 浅見吏郎（2008）『札幌市及び札幌周辺の獅子舞』「札幌大学共同プロジェクト報告書－道都札幌市の現状とこれからの課題」, 札幌大学
- 風連町史編さん委員会編（1999）『風連町史第二巻』, 風連町役場
- 南富良野町史編纂委員会編（1991）『南富良野町史下巻』, 南富良野町役場
- 丘珠獅子舞保存会編（2012）『丘珠獅子舞』リーフレット
- 新十津川町獅子神楽保存会編（1982）『獅子神楽七十五年記念誌』, 新十津川町獅子神楽保存会
- 空知地方史研究協議会編（1980）『空知の郷土芸能』空知文化財シリーズ第9集, 空知地方史研究協議会
- 空知地方史研究協議会編（1981）『空知の指定文化財』空知文化財シリーズ第10集, 空知地方史研究協議会

参照サイト

- 『芦別市指定無形文化財芦別獅子』 <http://www15.plala.or.jp/ashisisimai/>
- 『角田獅子舞』 <http://kakutashishimai.lix.jp>（2007年）
- 『北海道文化資源データベース』
<http://www.pref.hokkaido.jp/keikaku/ks-bsbsk/bunkashigen/index.html>
- 『室蘭市立喜門岱小学校』 <http://www.muroran.iburi.ed.jp/~kimontai/>（2008年）